

## セミのぬけがらみつけ！

遠藤 登志子（千葉市）

日 時：2013年8月18日（日）10時30分～12時 天候：晴れ

参加者：14名（大人10名 子ども4名）

担当指導員：田井中信子 遠藤登志子

強い日射しが照り付けているため、木陰に入って大草いきものの里の説明と諸注意をし、セミのぬけがら集めのためのパックを一人ずつに手渡し、セミのぬけがらは触角をつぶさないで集めるよう話しました。入口広場にもセミの鳴き声が響いています。「鳴いているのは、何ゼミでしょう？」との声かけとともにスタートしました。

小道にはいるとアブラゼミの死骸がいくつも落ちており、子どもたちは思わず拾い集めます。お母さんが「ヌケガラ集めだよ」と注意を促すと、木の幹にも葉裏にも多くのぬけがらを見つけて集めていきました。めじろんばから左に折れた斜面林では、大きなノコギリクワガタがいたり、クモの糸に引っかかって、宙吊りでもがいているヒグラシがいました。しかも、セミヤドリガの繭が羽に2つ付いています。「うわー・・・」しばらく進むとオニヤンマのパトロールが見られ、初めて見たというお母さんは、興奮気味でした。

一人平均10個のぬけがらを集め、集合して、ぬけがら全部を種類ごとに分けました。ヒグラシ64、ニイニゼミ7、ツクツクボウシ2、アブラゼミとミンミンゼミ合わせて67（触角が取れていたりして判別しにくかったため分けませんでした）。ぬけがらの形状で種類や性別が分かることに驚いたり、興味をもってくれたようでした。

セミの生活を知るためのクイズも実施しました。①鳴くのは♂、♀、それとも両方？ ②産卵場所は？ ③食べ物は？ 資料や絵本なども使って解答しました。

オニヤンマをつかまえた参加者がいて、子ども達でチョコリレーをしたのですが、虫が嫌いと言っていた女の子もチョコつかみをして輝く笑顔。お母さんは、感想で「今日の収穫はすごく大きかった」と話されました。



左から  
アブラゼミ  
ミンミンゼミ  
ヒグラシ  
ツクツクボウシ  
ニイニゼミ